

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	情報理論
科目基礎情報						
科目番号	0086		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	制御情報工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	1		
教科書/教材	マルチメディア時代の情報理論 (小川英一, コロナ社)					
担当教員	内堀 晃彦					
到達目標						
情報理論についての講義を行う。 ①情報量の数学的定義を用いてエントロピーや情報源の分類などの理論的性質を導ける。 ②情報伝達の効率化を実現する符号化法について具体的に述べ、符号化および復号ができる。 ③情報量に関する理論的性質と、具体的な符号の持つ性質とを関連付けることができる。 具体的な目標は各単元ごとに下記に記述する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	情報量に関する数学モデルについて理解し、授業とは違う条件のもとでモデルの応用を考えることが出来る。	情報伝達の効率化を実現する符号化法に基づき、具体例の符号化や復号の計算が行える。情報量に関する数学モデルについて、授業で教えた数式等の理解が出来る。	情報量に関する数学モデルにあてはめて、具体的な計算を行うことができる。	情報量に関する数学モデルにあてはめて、具体的な計算を行うことができない。		
評価項目2	平均符号長等の理論的な判断基準に基づき、複数の符号化方法について比較・検討ができる。	平均符号長などの符号としての能力を計算できる。	情報伝達の効率化を実現する符号化法に基づき、具体例の符号化や復号の計算を行うことができる。	情報伝達の効率化を実現する符号化法に基づき、具体例の符号化や復号の計算を行うことができない。		
評価項目3	右のレベルに加え、授業とは違う条件のもとで理論展開ができる。	情報源の持つエントロピーと具体的な符号が持つ平均符号長との関係式が記述でき、具体的な場面における計算をもとに具体例を示すことができる。	情報源の持つエントロピーと具体的な符号が持つ平均符号長との関係式が記述できる。	情報源の持つエントロピーと具体的な符号が持つ平均符号長との関係式が記述できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第1学期開講 第3学期開講の符号理論と対になる科目である。本来は、情報理論ではシャノンの情報量に関する理論を中心とした基礎概念の理解、符号理論では実際の符号やデータ圧縮の応用を取り扱うべきであるが、必修・選択の関係上、情報理論では情報源符号化に関する概念および実際の符号を、符号理論では通信路符号化に関する概念および実際の符号を取り扱う。					
授業の進め方・方法	[自学自習プリントについて] 授業の開始時に、自学自習プリントを配布する。プリントに記載されている課題が解ける力を身につけることが、その授業における最低限の目標である。理解度を確認するための小テストを数回に分けて実施するが、小テストは自学自習プリントの課題に関する理解度を問うものである。 [小テストの評価について] 小テストは授業開始時に行う。公認以外の遅刻、欠課、欠席等により小テストを受けなかった場合は0点として評価する。公認による見受験の場合、それ以外的小テストによる評価を行う。 [e-learning用Web資料] WebClassに授業資料を置く。資料の再配布はしないので、適宜ダウンロード、印刷をすること。					
注意点	情報量の定義において対数および確率の概念が出てくるため、基礎事項を復習の上、授業にあたって欲しい。情報理論の諸概念を理解することと、具体的な計算ができることの双方を目標とする。後者のために実際に手を動かして多くの計算を行いながら、前者の目標達成に努めて欲しい。5年次前期の開講科目であるため、進路活動による欠席が多いことが予想される。従って、一回の講義の進度を早めにし、復習に時間をかける授業進行を行う予定である。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	情報伝達の基礎知識	情報理論に関する概観について理解する。		
		2週	情報量	具体的な情報源に対し、情報量を求めることができるようになる。		
		3週	平均情報量 (エントロピー)	具体的な情報源に対し、エントロピーを求めることができるようになる。		
		4週	情報源符号化	与えられた符号を分類し、符号化することができる。		
		5週	ハフマン符号	情報源記号の出現確率分布が与えられたとき、ハフマン符号を求めることができる。		
		6週	ハフマンブロック符号	・与えられた符号を分類できる。 情報源記号の出現確率分布が与えられたとき、ハフマンブロック符号を求めることができる。		
		7週	情報源符号化定理	情報限符号化による効率化に理論的な上限があることを学ぶ (情報源符号化定理)。		

	2ndQ	8週	定期試験	
		9週	まとめ	
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	情報数学・情報理論	情報量の概念・定義を理解し、実際に計算することができる。	4	
				情報源のモデルと情報源符号化について説明できる。	4	

評価割合

	試験	小テスト	レポート	合計
総合評価割合	80	15	5	100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	15	15	0	30
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	15	0	0	15
汎用的技能【情報収集・活用・発信力】	0	0	5	5
態度・志向性(人間力)【論理的思考力】	35	0	0	35
総合的な学習経験と創造的思考力	15	0	0	15